

支持的風土の 醸成

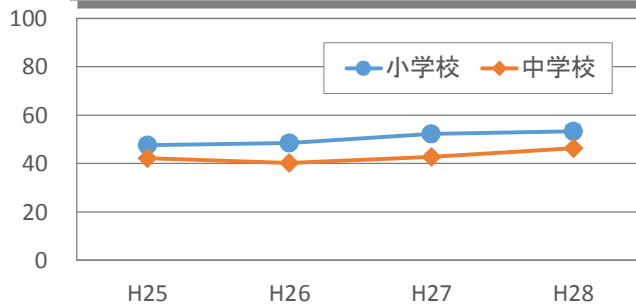
～ 子どもたちの笑顔のために ～

1 学級や学校での子どもの様子はどうなっていますか？

学級や学校を支持的風土の観点で見つめ直します。

- 下のグラフは全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙における函館市の結果です。この結果からも、全ての子どもが楽しいと思える学級・学校づくりの充実に、より一層努めていく必要があることが分かります。

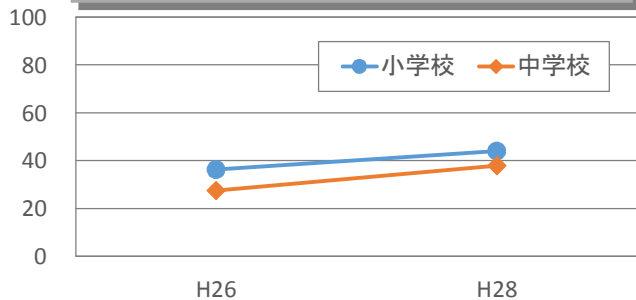
学校に行くのは楽しいと思えますか。



約50%の子どもにとって、学校が楽しい場所になっていないのかもしれないかもしれません。



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思えますか。



教職員の思いが、子どもに理解してもらえていない可能性があります。



※ 平成25, 27年度は質問項目なし

学級や集団をチェックしてみよう。

支持的風土が、学級に醸成されているでしょうか。

- 仲間同士のかかわりが多い。
- 必要以上に気を配らなくていい環境である。
- 失敗を恐れず、発言や行動ができる環境である。
- 他を認め、助け合う姿が見られる。
- 他に対して敵意が少ない。
- グループや役割が固定していない。
- 目的に向けて、個々の自発性が尊重されている。
- 主体的に様々な活動に取り組んでいる。
- 教職員や子ども同士の多様な評価が行われている。

2 「居場所づくり」と「絆づくり」を意識していますか？

教職員が「居場所」をつくり、子どもが「絆」をつくります。

○ 「居場所づくり」と「絆づくり」について確認してみましょう。

「居場所づくり」とは、

子どもが安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくりだすことを指しています。すなわち、教職員が子どものためにそうした「場づくり」を進めることであり、子どもはそれを享受する存在と言えます。



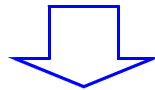
居場所づくり

「絆づくり」とは、

主体的に取り組む共同的な活動を通して、子ども自らが「絆」を感じ取り、紡いでいくことを指しています。「絆づくり」を進めるのは子ども自身であり、教職員に求められるのはそのための「場づくり(場や機会の提供)」, いわば黒子の役割と言えます。



絆づくり



支持的風土の醸成に向けては、「居場所づくり」だけでなく意図的に「絆づくり」を進めていくことが重要です。

「課題を抱えている子どもに寄り添う」「間違ったり失敗したりしても笑われない学級にする」「対人関係のトラブルが起きないようにエクササイズやトレーニングを行う」などは、「居場所づくり」に向けた大切な取組ですが、先生方が「居場所づくり」をすれば、自然に子どもたちの間に「絆」が生まれるわけではありません。

絆づくりに向けては、主体的な学びを進め、共同の活動を通すことが不可欠になります。さらに、教職員の意図的な働きかけが必要となります。



3 ねらいを明確にした取組を進めていますか？

集団を通して個を育て、個の成長が集団を発展させます。

- 「居場所づくり」や「絆づくり」の中で常に心掛けたい姿勢や態度を、「個」と「集団」の視点で具体的に見てみましょう。

主に個へのかかわり

思いやりの態度を育てる

- ① 相手の立場に立ち、相手の考えや思いをくみ取ることを、常に心掛けさせる。

- ・ 道徳の授業で、考え、議論する機会をつくる。
- ・ 日常の出来事を題材に、朝の会や帰りの会で話題にする。
- ・ 子どもの作文や取組等を紹介し、教師の思いやねらいを伝える。
- ・ 子どもの言動や態度を全体に紹介し、価値付けする。 など

- ② 自分自身への内省を習慣化させる。

- ・ 道徳の授業で、自己を見つめる機会をつくる。
- ・ 行事の途中や終了後、学期末等に自分の活動等を振り返る機会をつくる。
- ・ 帰りの会で1日を振り返る機会をつくる。
- ・ 内省の意義を、発達の段階に合わせて丁寧に説明する。 など

多様性を認める態度を育てる

- ① 相手の欠点を指摘するのではなく、相手の考えや行動の長所を探すよう努め、認め合うようにさせる。

- ・ 教師が積極的に子どもの良さを認め、伝える。
- ・ リフレーミングを実践する。
- ・ 話し合いで、ブレインストーミングの技法を取り入れる。
- ・ 授業で、子どもの多様な考えを引き出す。
- ・ 授業で、子どものつぶやきを取り上げ、価値付けする。
- ・ 道徳の授業で、様々な視点や立場から考える機会をつくる。 など

- ② 「ありがとう」「よかったね」などといった言葉が飛びかうような受容的・共感的な雰囲気の中で生活させる。

- ・ 教師から積極的に実践する。
- ・ 子どものよい言動や態度を全体に紹介し、価値付けする。
- ・ 実践を通して、その価値について考える機会をつくる。
- ・ 情報モラル教育と関連させる。
- ・ 児童会、生徒会などの活動と関連を図り、取組を学校全体に広げる。 など

主に集③へのおかわり

集団のきまりを共通理解させる

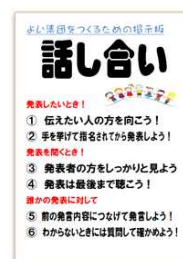
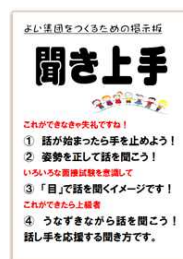
- ① 教師が子どもに一方的に指導するのではなく、子どもたち自身で話し合い、
つくり出していくようにする。
(話し合うことができない内容でも、子どもが納得した上で決める。)

- ・ルールづくりの重要性を丁寧に説明する。
- ・学級の目標づくりやルールづくりを、一部の子どもだけでなく、学級全体で話し合う場や機会をつくる。
- ・修学旅行、宿泊研修、遠足等では、実行委員会などの組織が中心になってルールづくりなどを行う機会をつくる。
- ・部活動でのルールづくりについて、リーダーを中心に話し合う場や機会をつくる。
- ・話し合いで作成したルールやマナーを教室内に掲示し、定期的に見直し、評価・改善を図る。 など



- ② 集団の成熟にともない、子どもと共に内容を見直していく。

- ・学校生活を、学級のきまりやルールの視点で振り返り、話し合う場や機会をつくる。
- ・生活を振り返り、自分の成長を自覚させる場や機会をつくる。
- ・発達の段階に即して、自治的活動を促していく。
- ・学級のきまりやルールの見直しについて、係や委員会活動との連携を図る。 など



～ルールやマナーの学級内掲示例
(中学校)～

- ・必要な時に見直しやすい。
- ・落ち着きのない子どもにも、視覚に訴えることができる。

人間関係に柔軟性をもたせる

- ① 親和的な言動を心掛ける。

- ・お互いに尊重する姿勢の大切さを、説明する。
- ・子どもの立場を尊重するような態度で接する。
- ・トラブル発生時に、初めから叱るのではなく、まずは、子どもの思いを聞き出す。
- ・子どもの言動に気を付け、教師の言動を振り返る。 など

- ② リーダーの固定化を避け、流動性をもたせる。

- ・係や委員において一人に一役をまかせる。
- ・定期的にグループ内のリーダーを変更する。
- ・子どもの頑張りを紹介し、価値付けする。
- ・学級通信を通して子どもの活動や頑張りを紹介する。 など



4 計画的な取組をしていますか？

年間を通して、育てたい子どもの姿をイメージしながら計画を作成することが大切です。

○ 「支持的風土の醸成」に向けた具体的な取組を見てみよう。

学級経営計画表例（6年生）

月	4月	5月	6月	7月	8月
学級経営の重点	【学級目標】 <input type="checkbox"/> 礼儀正しい姿を！ → 学校や地域社会の一員としての望ましい態度の育成 <input type="checkbox"/> 主体的な行動を！ → 自ら課題を見つけ、意欲的に活動する子の育成を目指す <input type="checkbox"/> 共生の心を！ → 一人一人のよさを認め合い、共に高め合う子の育成を <input type="checkbox"/> 追求する意志を！ → 獲得した知識や技能を活かして、自分の可能性を高め				
育てたい集団の姿 【主として学級活動(1)にかかわって】	<input type="checkbox"/> (関・意・態)学級生活の充実と向上を意識しながら、積極的に議題を見つけて話し合い、 <input type="checkbox"/> (思考・判断)学級への所属意識・連帯意識を自覚し、仲間と共に諸問題のよりよい解決方法を <input type="checkbox"/> (技能・表現)互いの考えを尊重し合うとともに、よりよい成果を目指し活動することが <input type="checkbox"/> (知識・理解)効率的・効果的な話し合いの進め方や、生活上の諸問題の解決方法を理解し				
学級活動(1)	<input type="checkbox"/> 目標の共通理解 <input type="checkbox"/> 新しい学年やクラスへの思いや願いの交流 <input type="checkbox"/> 文章化と目標を受けての個人の目標作り <input type="checkbox"/> 基本的な話し合いの再確認 <input type="checkbox"/> 異学年交流を通して <input type="checkbox"/> 計画委員や議長団の決定と意義 <input type="checkbox"/> 高学年としての自覚 <input type="checkbox"/> 議題箱(提案ポスト)の使い方 <input type="checkbox"/> 思いやりの心の育成 <input type="checkbox"/> ルールやマナー <input type="checkbox"/> 議長団の扱い(下級生に対して)				
学級活動(2)	<input type="checkbox"/> 学級組織づくり <input type="checkbox"/> 当番活動(輪番制の仕事)…「口直」、「給食」、「清掃」 ※座席、生活班をベースにした輪番制とする <input type="checkbox"/> 係活動(住みよい学級にするための多様な仕事)…「〇〇会社」 ※適宜評価活動を実施し、見直しと改善を図る(倒産→新会社設立) ※一人一人が計画に沿いながら、責任をもって活動を推進する ※集団のよさを感じられるイベントの企画・実践				
学校行事	<input type="checkbox"/> 始業式 <input type="checkbox"/> 委員会編成 <input type="checkbox"/> 新しい学年・学級で活動する意欲、最高学年としての自覚	<input type="checkbox"/> 春の遠足 <input type="checkbox"/> 仲間づくりの意識を高める活動の話し合い <input type="checkbox"/> 1年生を迎える会 <input type="checkbox"/> 運動会係分担 <input type="checkbox"/> 運動会 <input type="checkbox"/> 最高学年としての参加の在り方	<input type="checkbox"/> 修学旅行事前準備 <input type="checkbox"/> 集団づくりにおける重要なポイントとして押さえる。互いのよさを認め合い、絆を深める場 <input type="checkbox"/> 運動会 <input type="checkbox"/> 話し合い活動の充実と集団活動の重点的な見取り	<input type="checkbox"/> 校内写真展 <input type="checkbox"/> 相互評価の実施 <input type="checkbox"/> 終業式 <input type="checkbox"/> 自己の成長や学級集団の変容のふりかえり	<input type="checkbox"/> 始業式 <input type="checkbox"/> 新学期の意気込み <input type="checkbox"/> 夏休み作業 <input type="checkbox"/> 相互評価の <input type="checkbox"/> 国際交流 <input type="checkbox"/> 話し合い活動の実践
教科等との関連	<input type="checkbox"/> 互いに「聞き合う」意識作り【国語「リリーススピーチをしよう!」】 <input type="checkbox"/> 多様な協議の形態 <input type="checkbox"/> イベントの企画・実践 <input type="checkbox"/> 様々な場面での相互評価の活用(各種発表交流会・作品鑑賞・グループ活動時等) <input type="checkbox"/> 道徳的判断力・実践力の育成——【「修学旅行の夜」自由・規律】——【「天からの」】				
教室環境	<input type="checkbox"/> 学級目標の掲示 <input type="checkbox"/> 個人目標の掲示 <input type="checkbox"/> 議題箱の設置 <input type="checkbox"/> 掃除当番表の掲示 <input type="checkbox"/> 係活動コーナーの設置 <input type="checkbox"/> 給食当番表の掲示 <input type="checkbox"/> 委員会活動コーナーの設置 <input type="checkbox"/> 係の掲示板の設置 <input type="checkbox"/> クラスの約束事の掲示 <input type="checkbox"/> 委員会の掲示板の設置				

具体的な子どもの姿を書き、見通しをもちながらかかわりましょう。

道徳の授業や行事との関連も図り、話し合い活動を充実させましょう。

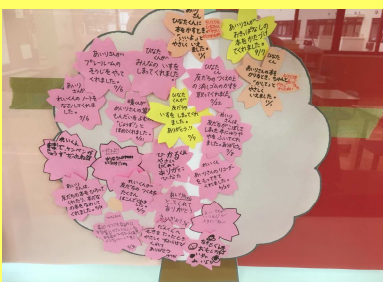
子どもの創意工夫を生かし、自己有用感を高めましょう。

成就感や達成感等に結び付く活動に発展させましょう。

活動の足跡を掲示しましょう。



ルールやマナーの掲示例



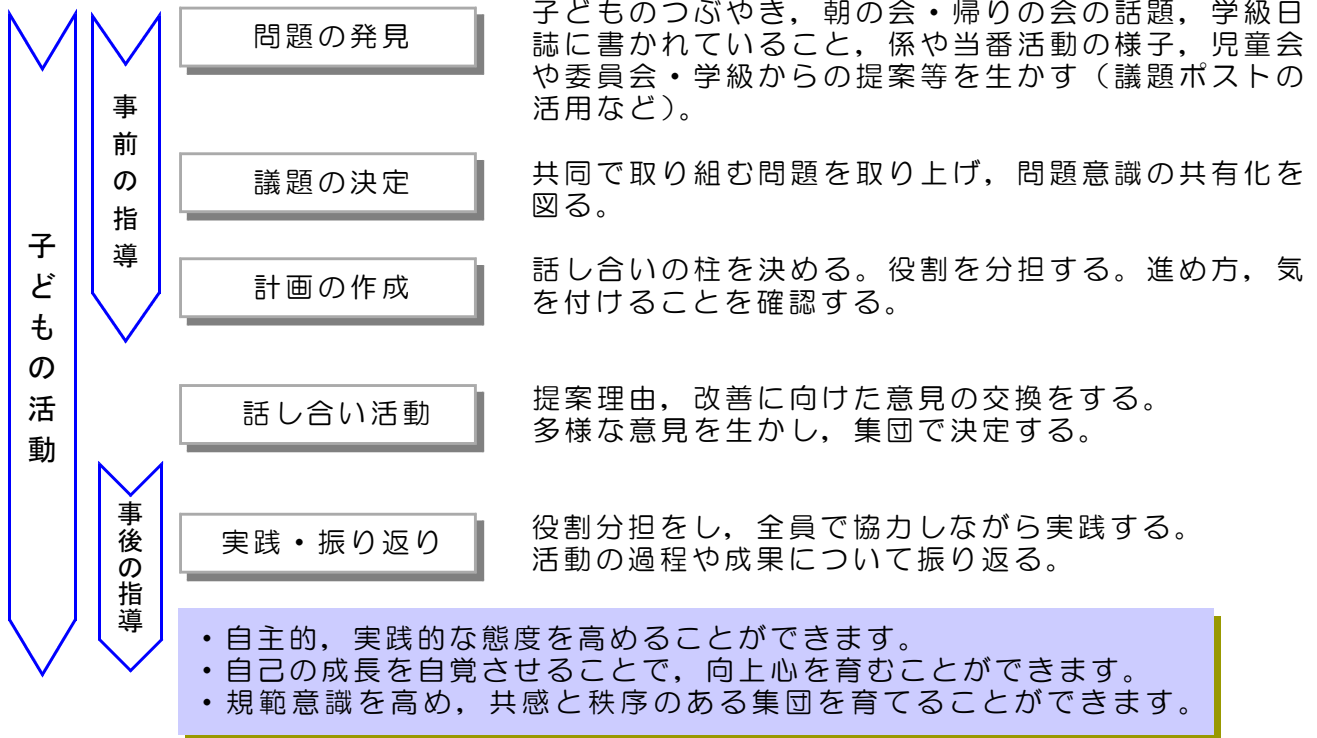
友達のいいところについて



当番活動コーナー

話し合い活動のポイント

- 特別活動における話し合い活動を通して、子どもの所属意識を高め、仲間と協力し合って学級生活の向上を考えていける集団を目指しましょう。



行事の充実について(異学年交流)

- 発達の段階に即して、意図的に異年齢集団での活動を取り入れ、リーダーシップ、フォロワーシップを育て、自主的・自律的に活動できる集団を目指しましょう。

- ・リーダー、フォロワーとしての心構えを説明する。
- ・活動をリードする上級生が、十分に準備や工夫できるよう時間を確保する。
- ・上級生に負担をかけすぎない。
- ・状況に合わせて計画を見直していく。

<活動例>

- ・運動会・体育大会：縦割り競技
- ・学芸会・文化祭：縦割り班での発表
- ・清掃活動：縦割り班での活動
- ・幼小中連携：異校種間交流

- ・お互いが、集団としてのまとまり方を学ぶことができます。
- ・経験、体力など発達の段階に即した役割により、互いに認め合い、仲間意識が高まります。
- ・行事を通じた信頼関係のもと、これからの学校生活への期待を高めることができます。



- ～活動の振り返り（小学校）～
- ・それぞれの学年に向けて「よかったことやがんばったこと、感想」などを交流

係活動の充実について

- 一人ひとりの自主的・自治的な活動を通して、自己有用感を高め、仲間との協力や信頼に基づき、学級生活を豊かにしていこうとする集団を目指しましょう。

- ・子ども自身が活動を見い出して、創意工夫していく大切さを説明する。
- ・子どもにとって必要であり、子どもの総意によって係組織を編成する。
- ・一人ひとりの活動の機会を設定する。
- ・活動の負担が過重にならないようにする。
- ・係活動の時間を確保する（学級活動、朝の会・帰りの会での連絡・発表など）。
- ・係活動コーナーなど活用し、自主的な情報発信の場をつくる。
- ・活動の内容や方法を見直し、改善を図る。

＜発達段階に即した留意点（小学校）＞

- ・低学年：みんなが楽しい学級生活を送るために、係が必要であるという意識を高める。定番的な活動から創意工夫できる係活動に移行していく。
- ・中学年：低学年までの活動を整理・統合し、創意工夫が活かされる係活動を組織する。協力し合って計画的に活動に取り組めるようにする。
- ・高学年：自主的に係活動を進めたり、自分のよさを積極的に活かせる係に所属したりするなど、集団的な活動の質を高められるよう工夫する。



～係活動（小学校）～

- ・自他の良さや自己の成長について考えることができます。
- ・お互いの頑張りを認め合い、学級内の人間関係を豊かにします。
- ・所属感や自己有用感を得ることで、これからの学校生活への期待を高めることができます。



＜参考文献＞

- 平成20年 8月 文部科学省 小学校学習指導要領解説 特別活動編
 平成20年 9月 文部科学省 中学校学習指導要領解説 特別活動編
 平成27年 3月 国立教育政策研究所 「生徒指導リーフ『絆づくり』と『居場所づくり』」
 平成25年11月 国立教育政策研究所 「生徒指導リーフ増刊号『いじめのない学校づくり』」
 平成26年 6月 国立教育政策研究所 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」
 平成28年 3月 国立教育政策研究所 「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」
 平成25、26、27、28年度 全国学力・学習状況調査
 平成24年 3月 相原次男・新富康央・南本長穂 編著 「新しい時代の特別活動」

平成28年度版 学校教育指導資料作成委員

委員長	松浦 一秀	校長	函館市立東小学校
副委員長	佐藤 雅博	教頭	函館市立五稜郭中学校
委員	中島 宏幸	教諭	函館市立本通中学校
委員	中村 円	教諭	函館市立北美原小学校
委員	林 聖	教諭	函館市立弥生小学校
委員	福崎 梢	教諭	函館市立日吉が丘小学校
委員	村上 兼人	教諭	函館市立高盛小学校
委員	吉田 友樹	教諭	函館市立潮見中学校

